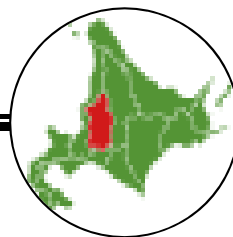


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮行動の普及啓発

空知総合振興局では、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、どうみんグリーンアクションの実践を図るため、「そらちエコラウンジ」事業を実施しています。

平成29年度は、環境行動に関するパネル展やいわみざわ環境フェスタ、砂川市及び栗山町で開催された消費者まつりに出展し、オリジナルエコバッグ作りに取り組み、環境行動の普及啓発を行いました。

今後も「そらちエコラウンジ」事業を継続し、空知管内の市町がエコの輪でつながっていくよう効果的な取組を進めていきます。

■環境月間パネル展



■いわみざわ環境フェスタ



(マイバッグ作り体験)

2 夕張岳の高山植物保護

富良野芦別道立自然公園の南端近くに位置する標高 1,668m の夕張岳は、ユウバリソウ、ユウバリコザクラ、シソバキスミレなどの希少な固有種をはじめ、北海道の山岳でみられる高山植物のほぼ全てがみられ、国の天然記念物にも指定される花の名山として知られています。

空知総合振興局では、こうした高山植物の不法盗掘や絶滅が懸念される希少種の保護対策として、地元で以前から保護活動を続けているユウバリコザクラの会を始め関係機関・団体と協力し、登山者にパンフレットの配布等の高山植物の盗掘防止キャンペーンを実施するとともに、道警とも連携し、ヘリコプターを使った上空からの監視など、盗掘防止のための多角的な監視活動を行っています。

■シソバキスミレ



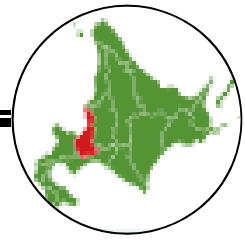
■ユウバリソウ



■ユウバリソウの生育区域（山頂付近）



＝【石 狩】



1 いしかり環境ミライ展 in 北広島

北海道では、北海道洞爺湖サミットを契機に、「北海道地球温暖化防止対策条例」に定められた「北海道クールアース・デー」（毎年7月7日）の関連イベントを、毎年開催しています。石狩振興局では、平成29年の取組として、6月24日に北広島市ふれあい学習センター「夢プラザ」において、自転車による発電や手づくりうちわの作成などの体験を通じて、限りある資源を有効活用することの重要性や、環境への負荷が少ない水素社会の形成について、道民の関心と理解を深めることを目的とした「いしかり環境ミライ展 in 北広島」を開催しました。

■自転車による発電体験



■手づくりうちわの作成



2 3R推進キャンペーン&北海道クリーン作戦「ポイ捨てゼロの日」街頭啓発

石狩振興局では、平成29年10月12日、札幌駅・地下街アピアにおいて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進を図ること及び空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻の散乱防止を目指し、道民の環境意識の高揚とモラルの向上を図るため関係団体と合同で啓発活動を行いました。「やめようたばこ、空き缶等のポイ捨て」ののぼりをたて、3R啓発ティッシュ、メモ帳などを配布するとともにポイ捨てゼロへのご協力について声かけを行いました。

■環境忍者えこ之助 参上！



■3Rを推進する くるりん



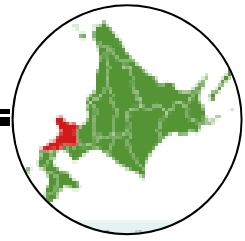
3 地域環境学習「自然観察会 ～秋の野鳥観察会～」

身近な自然に接する機会を提供し、環境に配慮した地域作りを目指す「地域環境学習」として、9月17日に石狩市との共催で秋の野鳥観察会を実施しました。

会場は、多様な水鳥や猛禽類が見られることで知られる「いしかり調整池」。

北海道野鳥愛護会の樋口会長を講師にお迎えし、2時間余りで調整池の周り一周しながら、オジロトウネンなどのシギ類をはじめとして17種類の野鳥を観察することができたほか、池の干潟ではアライグマの足跡なども観察することができました。

＝【後 志】＝



1 環境学習「学ぼう！地球温暖化」

平成 29年7月12日（水）、公益財団法人北海道環境財団とともに、倶知安小学校（対象：3年生）にて地球温暖化防止をテーマにした出前授業「学ぼう！地球温暖化」を行いました。

参加者には、グループ活動「パズルで世界のここが変！」、クイズとお話「自分たちができることをみつめる」などの活動を通して、温暖化の原因と問題点並びに自分たちの生活に欠かせない化石燃料の恩恵と問題点について学んでいただきました。

最後に、ブレインストーミング・発表「地球温暖化を防ぐために、私たちができることってなんだろう？」にて、自分たちの意見を模造紙にまとめていただきました。

2 環境学習「身近な自然や川の環境を調べよう！」

平成29年FF.ニセコ川を見る会及びニセコ町企画環境課とともに、環境学習「身近な自然や川の環境を調べよう！」を実施しました。ニセコ町の小学生らを対象に、ニセコ町内を流れるルベシベ川での水生昆虫、魚の観察やパックテストによる水の測定を通して、川への親しみや魅力を感じていただくとともに、ルベシベ川の水質の状態を確認することで、身近にある水環境の保全に対する理解を深めていただきました。

後志総合振興局では、引き続き、清流日本一の尻別川を含む、管内河川の環境保全のための取り組みを推進していきます。

■水生生物観察



■パックテスト



3 大平山高山植物盗掘防止パトロール

島牧村にある大平山（オピラヤマ）は超塩基性の地質であることから、オオヒラウスユキソウ等の希少な高山植物等が生育しています。後志総合振興局では関係機関や民間団体と協力し、「大平山高山植物保護対策協議会」（事務局：環境生活課）を設置し、保護対策や盗掘防止等について、検討や協議をしています。

また、関係者で大平山高山植物盗掘防止パトロールを年間5回ほど実施し、高山植物の生育状況の確認、入山者への普及啓発、自然歩道等の修復及び注意標識の設置等を行っています。

入山から下山まで、約8時間を要するハードなパトロールとなっていますが、関係者の努力が奏功し、ここ数年間は高山植物の盗掘は確認されておりません。

■オオヒラウスユキソウ



■協議会で設置した標識



4 狩猟免許出前教室及び鳥獣被害防止対策専門研修会の開催

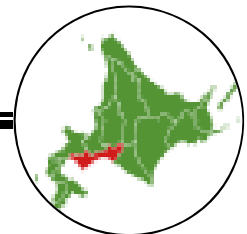
エゾシカをはじめとした野生鳥獣による農林業被害が増加傾向にあり、人間生活と野生鳥獣との軋轢が深刻化しています。一方で、野生鳥獣対策の担い手となる狩猟免許所持者は全国的に新規の取得者が減少傾向にあることから、後志総合振興局では、鳥獣による農林業被害を受けている方や狩猟への関心が高い方を対象として、狩猟免許の取得を促進し、地域の被害防除に寄与することを目的として、「狩猟免許出前教室」を実施しています。

また、近年では、アライグマによる農業被害等が増加傾向にあることから、平成27年度からは被害防止のための捕獲技術講習会等を開催し、平成29年度はICT技術を活用した野生鳥獣の監視技術についての講習など、5回の鳥獣被害防止対策専門研修会を開催しました。

■鳥獣被害防止対策専門研修会



＝【胆 振】



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

(1) いぶりガイアナイト2017

平成29年7月13日に、むろらん広域センタービル1階ロビーにおいて、「いぶりガイアナ

イト 2017」を開催しました。

開催に先立ち、ガイアナイト写真展とともに、製作したキャンドルホルダーを会場ギャラリーで展示しました。

また、当日は、わくわくおはなし会やハンドベルミニコンサートを開催し、来場された地域の方々と地球環境のためにできることを考える時間を過ごしました。

そのほか、庁舎ビルや室蘭のシンボルである測量山、白鳥大橋のライトダウンも併せて行いました。

■キャンドルホルダーづくり



■ハンドベルミニコンサート



■パネル展示



(2) NPO 法人等の取組

胆振管内では、身近な自然の復元を図る事業としてビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」や室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために浜の清掃活動や学校で子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動している「室蘭イタンキ浜 鳴り砂を守る会」など、NPO 法人や各種団体等による様々な環境保全活動が行われています。

胆振総合振興局では、これらの NPO 法人が実施する取組に対して積極的に参加しています。

(3) いぶりウォームビズ&フードマイレージ

平成 29 年 12 月 11 日から 15 日まで、むろらん広域センタービル1 階ロビーにおいて、「いぶりウォームビズ&フードマイレージ」を開催しました。

むろらん広域センタービルでは、12 月の地球温暖化防止月間に併せて、地球温暖化防止に係る取組みの促進を目的とした、職場や各家庭で容易に取り入れることができる「ウォームビズ」及び食からの CO2 排出削減の取組、さらには食育や地産地消にもつながる「フードマイレージ」に関するパネル展示や啓発品の配布を行いました。

■いぶりウォームビズ&フードマイレージ



2 野生鳥獣対策

胆振管内を含む北海道西部地域のエゾシカ生息数は、平成23年度をピークに増加から減少に転じましたが、鈍化した平成25年度からは東部地域よりも多くなっており、未だ、農林業被害や交通事故など様々な問題を引き起こしています。

このようなエゾシカによる被害を防止するため、胆振総合振興局では、胆振地域エゾシカ・ヒグマ対策連絡協議会を開催するなど、関係機関の連携により、エゾシカを始めとした有害鳥獣の捕獲体制の強化等を推進しており、エゾシカに関しては一般的な駆除では捕獲が困難な地域において北海道自ら捕獲事業を実施しています。

なお、エゾシカ有効活用では、安全・安心なエゾシカ肉の提供と販路拡大を図り、地域ブランド化を推進したことにより、管内からエゾシカ肉処理施設認証制度に基づいた処理施設が誕生しました。

また、道民を対象としたイベントにおいて、シカ角ストラップの製作を通じて普及啓発を図りました。

このほか、登別市では市内で製造されたシカ肉の缶詰やシカ肉のジンギスカンを「登別ブランド推奨品」として認定するなど、地域独自で有効活用に取り組む動きもみられています。

■エゾシカ肉処理施設認証制度に基づく検査



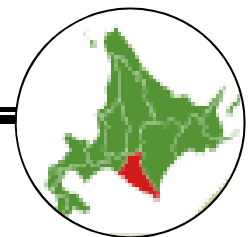
■エゾシカ有効活用（シカ角ストラップ）



■シカ肉缶詰



＝ 【日 高】



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

日高振興局では、7月7日の北海道クールアース・デイと連携し、住民の皆さんに地球温暖化防止の意識を高めていただくことを目的に、平成23年度からガイアナイトイベントを開催しています。

平成29年度は、7月7日から7月13日までの間、ひだかガイアナイトとして地球温暖化防止・エコライフスタイルに関するパネル展示を日高振興局エントランスホールにて実施し、キャン

ドル等の配布を日高振興局エントランスホール及び浦河町役場ロビーにて実施しました。

また、10月の3R推進月間にあわせ、10月19日に、浦河町総合文化会館で開催されたうらかわ消費生活展にて、3R推進・エコライフスタイルに関するパネル展示や啓発物品の配布を実施しました。

■ひだかガイアナイト(パネル展示、キャンドル等配布)



■うらかわ消費生活展(パネル展示、啓発物品配布)



2 エゾシカ対策

日高管内では、エゾシカの農林業被害は増大しており、地域の課題となっています。

農林業被害の8割近くは牧草ですが、牧場付近での銃器によるエゾシカの捕獲は、軽種馬や和牛を誤射する危険性があるため、日高振興局では、くくりわなによる捕獲を促進しています。

わな免許取得初心者等を対象に、捕獲技術を伝える「狩猟免許出前教室」を管内2カ所で開催し、43名の方に参加いただきました。

また、平成29年5月には、エゾシカ協会と協力し、「エゾシカの聖地・日高を目指して」と銘打ったシンポジウムを実施し、エゾシカ利活用品を展示した「エゾシカ肉活用シンポジウム2017in日高」を開催しました。

このような取組を通じて、わな免許取得初心者の捕獲技術の向上や、地域資源としてのエゾシカ肉の活用、廃棄物の縮減が図られたものと考えています。

■狩猟免許出前教室



■エゾシカ肉活用シンポジウム2017in日高



3 ゼニガタアザラシ学習観察会

近年、襟裳岬周辺を中心に準絶滅危惧種であるゼニガタアザラシの生息数が増加しており、サケの定置網漁やタコ漁などに深刻な漁業被害をもたらしています。

人間とゼニガタアザラシの共存を考えるため、平成30年3月25日に、えりも町の「襟裳岬風の館」において「親子で考えよう!ゼニガタアザラシ学習観察会」を開催しました。管内から親子連れなど約70名の方に参加いただき、ゼニガタアザラシを観察するとともに、その生態や漁業と

の共存などについて理解を深めました。

■スライドを用いて生態を説明



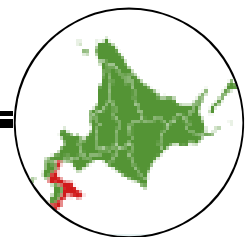
■望遠鏡でアザラシを観察



■アザラシの皮に触れる参加者



＝【渡 島】



1 豊かな大沼の自然とワイズユース

平成 28 年 3 月に開業した北海道新幹線「新函館北斗駅」からも近い大沼公園地区は、美しい景観と多様な生態系で知られ、平成 24 年 4 月には大沼をはじめとした湖沼群周辺が道南では初のラムサール条約湿地に登録されました。しかしその一方で、富栄養化による水質の悪化が見られ、特に夏場などに発生するアオコは生態系への影響や観光地としてのイメージを損なうものとなっており、湖沼環境の保全が求められています。

大沼の環境を保全してゆくためには、これまでの大沼のことをあまり知る機会が無かった多くの住民の方々に関心を持ってもらうことも大切であり、渡島総合振興局では、七飯町、大沼ラムサール協議会、北海道国際交流センター、七飯大沼国際観光コンベンション協会、自然公園財団大沼支部ほか多くの皆様に協力をいただき、平成 30 年 3 月 3 日、函館市内大型書店にて「豊かな大沼の自然とワイズユース」と題し、トークセッション、パネル展及び、子供たちを対象に大沼に生息するエゾモモンガの塗り絵などを実施し、多くの皆さんに大沼の豊かさを知っていただきました。

■「豊かな大沼の自然とワイズユース」の様子



2 譲渡犬に関するフォローアップ講習会

平成 29 年 10 月 15 日人と犬とのより良い関係作りをお手伝いすることを目的に、当振興局から犬を譲り受けいただいた方を対象にフォローアップ講習会を開催しました。

犬との良い関係を築くことはなかなか大変です。今回が初めての試みでしたが、管内の犬の訓練事業者を講師に 8 名の方が講習会に参加されました。

まず、会議室内で講義を行い、犬に対する接し方を学びました。その後、屋外で実際に犬に触れながらの実習を行いました。普段の散歩の様子を見せていただくと、ほとんどの犬で引っ張る行動が見られましたが、講師による散歩のお手本の後、実践してみると普段と違い従順な犬の姿が見られ、楽しみながら犬との接し方を学んでいただけました。

■講義の様子



■実習の様子



3 外来種シンポジウムの開催

平成 29 年 10 月 14 日、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、シンポジウム「外来種だらけ？道南地域の生物多様性と外来種問題」が、大沼ラムサール協議会、北海道新聞、北海道新聞野生生物基金、北海道ラムサールネットワーク、酪農学園大学、北海道渡島総合振興局の共催、北海道外来カエル対策ネットワークの協力を受けて開催されました。

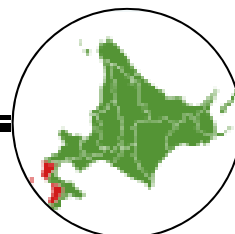
■酪農学園大学がウシガエルの現状を説明



道南地域は、温暖な気候、港、空港での人や物流を考えると、外来種が侵入、定着しやすい環境にあります。

この観点から、中井克樹さん(滋賀県立琵琶湖博物館)の基調講演「琵琶湖における外来種対策」のほか、更科美帆さん(酪農学園大学)の講演「道南の水棲外来種の課題ー6年間のウシガエル調査から見える現状ー」やパネルディスカッションを通じ、外来種問題をどのように捉え、対処すべきかを考えるきっかけとなる場として有意な開催となりました。

＝【檜 山】＝



1 野鳥情報の発信～かもめ島野鳥観察記録発信事業～

道南の江差町の市街地から、日本海に突き出たかもめ島は、檜山道立自然公園の特別地域に指定されている美しい島で、江差町のシンボルとして親しまれています。

かもめ島という名前のとおり、カモメ類が多く生息している島ですが、かもめだけではなく、四季を通じて多種の野鳥を観察することができる、おすすめの探鳥地です。

島を一周する散策路を、日本海と遠くに浮かぶ奥尻島の雄大な景色や、対岸の歴史ある町並みを楽しみながら散策すると、海辺に生息するアビ類、カモ類だけではなく、ルリビタキやクワイタダキなどのかわいらしい小鳥たちにも出会うことができます。

檜山振興局では、かもめ島の自然環境の魅力を、多くの人に知っていただき、親しんでいただくため、平成 25 年から平成 28 年の間の延べ 500 日にわたる野鳥観察データを基にした、かもめ島野鳥観察ブックを作成し、配布しています。

また、2017 年からは、町内の道の駅などの観光拠点に、観察記録を画像で紹介するデジタルフォトフレームを貸し出し、野鳥情報を発信しています。



2 厚沢部川と生息する生き物と河川環境を次世代に

昭和 47 年に町内の有志が、「厚沢部町河川資源保護振興会」を設立。厚沢部川の豊かな自然と水辺環境を活かし、子供たちが水遊びを通して郷土の自然を学び、体験できる場として、様々な自然体験学習や啓蒙活動を行ってきました。

近年も、厚沢部川に生息するカワヤツメやアユをはじめとする水資源の保護、増殖、河川環境保全に努める活動をしています。

(1) カワヤツメ、アユ資源回復事業

平成 29 年 5 月 15 日、厚沢部小学校 4 年生の総合学習の授業で、会長が講師を務めカワヤツメの人工授精体験教室を実施しました。受精卵は 1 ヶ月ほど 4 年生が管理を行い、ふ化後に厚沢部川に放流されました。

会では、地域の貴重な水資源であるカワヤツメの資源回復のため人口種苗生産と放流に取り組んでいます。



(2) 河川美化事業

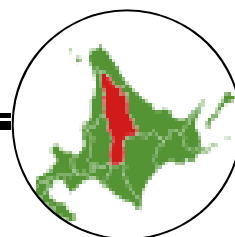
平成 29 年 6 月 18 日、アユの放流事業と合わせ、会員及び厚沢部土地改良区職員が参加し、河川敷地及び河川内のゴミ拾い・草刈りを実施しました。夏にはきれいになった川で親子生き物観察会などを実施しました。会では、地域住民が親しみ、憩える水辺空間の実現を目指した活動を継続します。

(3) 河川資源展

平成 29 年 11 月 2 日、町総合体育館で厚沢部川に生息する魚、甲殻類、貝類等のパネル紹介・水槽展示を行いました。大人も子供も興味津々に見学していました。



＝ 【上 川】



1 エコ&セーフティドライブの取組

道は、環境負荷の少ない運転をすることで二酸化炭素排出量の削減と交通安全を一体的に推進するため、「エコ&セーフティドライブ」の普及を進めています。

上川総合振興局では、平成 29 年 8 月 19 日に（一社）旭川地区トラック協会が開催した「トラックふれあいフェスティバル」において、エコ&セーフティドライブに関するパネルの展示とともに、燃料電池車（模型）の実験走行を行い、幅広い世代の皆さんに、「ふんわりアクセル」、「アイドリング・ストップ」など、環境負荷の少ない自動車の運転技術や、環境にやさしいエネルギーの利用について理解を深めていただくための取組を行いました。

また、レジ袋の利用削減に向けて、マイ・エコバッグ作りを体験してもらい、楽しみながら 3R（ごみの発生抑制・再使用、再生利用）推進の取組について理解を深めていただくための取組を行いました。

■燃料電池車（模型）の実験走行



■マイ・エコバッグ作りの体験



2 キャンドルナイト in 旭川

平成29年6月17日、旭川市市民活動交流センターCoCoDeにおいて「キャンドルナイト in 旭川」が開催され、地域の皆さんが地球環境について考えながら、スローな時間を楽しみました。

上川総合振興局では、このイベントにブースを出展し、ミツバチの巣をリサイクルした蜜ろうによるエコ・キャンドル作りや、マイ・エコバッグ作りを体験してもらうなど、地球にやさしいエネルギーの利用や3R推進の取組について理解を深めていただくための取組を行いました。

3 地域環境普及学習事業「エコキャンプ in 朱鞠内」

朱鞠内道立自然公園の魅力のPRやエゾシカ肉の試食を通じて、地域の自然環境を深く理解してもらうため、平成29年8月9日、地域のアウトドアガイドを講師としてお迎えし、一般参加者など総勢40名による「エコキャンプ in 朱鞠内」を開催しました。

親子での参加者に対し、朱鞠内湖の自然についての解説や、魅力について説明をしながらゴムボートの体験を行いました。

また、人工物に住み着いたコウモリの観察や、エゾシカについての解説・試食を行い、朱鞠内道立自然公園のPRや地域の自然環境への理解を深めました。

今後も、こうした地域の自然環境、環境教育に関する啓発活動を行っていきます。

■エコキャンプ in 朱鞠内の様子



4 登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～

大雪山国立公園の旭岳裾合平周辺は、旭岳の雄大な景色を楽しみながら夏の間、エゾコザクラ、チングルマ、キバナシャクナゲ、エゾノツガザクラなどの高山植物等や、ハイマツ帯に止まっているギンザンマシコをより間近に観察できる場所です。また、裾合平周辺は、秋にはナナカマドやチングルマ等の見事な紅葉を楽しめるため、国内はもとより海外からも多くの登山者が訪れる人気の場所となっています。一方、利用者の増加や降雨等の自然現象により登山道の浸食や崩壊が進んでいるため、上川総合振興局では、登山道での事故の可能性を減らすとともに、大雪山の優れた自然環境の保全を図り、貴重で豊かな自然を次世代に引き継ぐことを目的として、平成29年7月29日に地元の山岳ガイド会社と共催で「登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～」を開催しました。

当日は一般参加者のほか、山岳会等の関係者や行政機関の職員など総勢62名により、丸太や現地石等を活用した登山道の段差解消の作業や、木道補修などを行いました。

今回の補修作業は、一般参加者と山岳関係者などが一緒に作業することにより、参加者全体の環境保全意識の向上に繋がり、また、山岳事故の未然防止にも寄与できたと考えています。

今後もこうした官民協働によるセミナーを継続して行うことにより、山岳環境保全意識の向上に努めていきます。

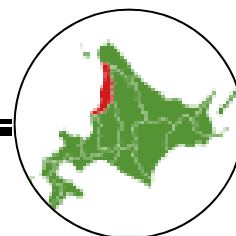
■補修資材運搬の様子



■参加者のみなさん



＝ 【留 萌】



1 増毛山道再生

【増毛山道再生の取り組み】

暑寒別天売焼尻国定公園の急峻な断崖の雄冬海岸を貫く国道 231 号（増毛国道）は、昭和 56 年に開通しましたが、かつては交通の難所とされ、この海岸線を迂回すべく、江戸幕府の命を受け増毛漁場を請け負っていた商人「伊達林右衛門」によって、安政 4（1857）年に開削されたのが「増毛山道」です。

この山道は、その後の交通機関の発達等により、次第に利用者が減少し、昭和 16 年の武好駅通^{*1}（ぶよしえきてい）の廃止以後は利用する人もほとんどなくなり、いつしかネマガリダケ（チシマザサ）の藪に埋もれていました。しかし、平成 21 年から留萌振興局と NPO 法人増毛山道の会が協働でその再生事業に着手、8 年の歳月をかけ平成 28 年 10 月 16 日の作業をもって、石狩市浜益区幌から増毛町別苅までの全線 27km^{*2}の復元が完了しました。

毎年開催している増毛山道の会による山道体験トレッキングでは、国定公園内の豊かな自然や増毛山地の山並と日本海の眺望のほか、武好駅通跡、当時の電信柱、橋の石積み、仏様の台座、遠く三河産花崗岩で造られた水準点等、北海道開拓の歴史的遺構を見ることができます。

平成 29 年度は、全線開通と山道開削 160 周年を記念し、6 月 11 日札幌駅前地下歩行空間（チ・カ・ホ）において記念フォーラムを開催したほか、従来の体験トレッキング（フル（16km）、山の日記念（7km）、ロングスト（22km）、フルーツと國稀（10km））と、新たに雄冬航路を加えた「西蝦夷こころ旅（こころたび）増毛山道・雄冬航路ツアー（10km）」^{*3}を実施しました。また、9 月 30 日の第 7 回トレッキングに併せて、全線開通記念植樹祭として、石狩市の木

「カシワ」と増毛町の木「ナナカマド」を参加者全員で植樹しました。

(注)※1 駅通とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を担った施設。

※2 増毛町岩尾までの分岐道を加えると全長 32km。

※3 平成 29 年度は、悪天候により雄冬航路体験は中止



■全線開通・開削 160 周年記念フォーラム



■第7回トレッキング・記念植樹祭参加者一同

2 3Rなどの普及啓発（フリーマーケット等の開催）

留萌振興局では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）や地球温暖化防止の啓発事業として、フリーマーケット（留萌リサイクル運動の会と共催）をはじめ様々なイベントなどを開催しました。

【普及啓発事業の開催状況】

(1) 6月（環境月間）開催イベント

環境月間である6月は、地域住民の皆様に関心を高めていただくことを目的として、平成29年6月18日（日）に留萌合同庁舎の駐車場を開放し、24店舗が出店するフリーマーケットと、庁舎内での3Rパネル展を併せて実施しました。

来場者は、出店者も含め約440人で、熱心に各店舗を回り、品定めする姿が見られました。



■フリーマーケット（6月）

(2) 10月（3R推進月間）開催イベント

3R推進月間である10月は、地域住民の皆様に関心と協力を目的として、平成29年9月10日（日）に留萌合同庁舎の講堂を会場にしてフリーマーケットを開催しました。

この事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅フェスタ2017」の一事業として実施しており、来場者は、他の事業も含めて約550人でした。



■フリーマーケット（10月）

(3) 12月（地球温暖化防止月間）開催イベント

地球温暖化防止月間である12月は、地域住民の皆様に関心と理解を深めていただくことをテーマとして、平成29年12月16日（土）に留萌合同庁舎の講堂を会



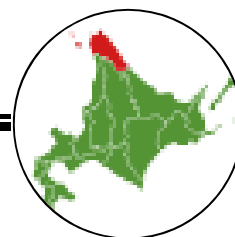
■エッグキャンドルづくり（12月）

場に、「エッグキャンドルづくり」を実施しました。

たまごの殻に着色されたロウを流し込むエッグキャンドルの作り方を教えるなか、キャンドルづくりを楽しむ子供たちの姿が見られました。

本事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅クリスマス」の一事業として実施しており、来場者は他の事業も含め、約350人でした。

＝【宗 谷】



1 高山植物盗掘防止の取組

礼文島は、標高が低い場所でもレブンアツモリソウなどの希少な高山植物を身近に観察できることから、植物の開花シーズンになると毎年多くの観光客が訪れます。

宗谷総合振興局では、希少な高山植物を守るため、関係機関と連携しながら、毎年6月と7月の2ヶ月間、「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れる観光客に対し、リーフレットの配布などを行うほか、振興局をはじめとする関係機関の職員や道の生物多様性保護監視員による盗掘監視パトロールを実施しています。

礼文町では、生物多様性基本法に基づき、礼文町生物多様性地域戦略「礼文島いきものつながりプロジェクト」を策定し、礼文島にある多様なつながりの保護と保全、恵みの継続的な活用に向けた取組みを進めています。その一つとして、礼文島でみることができる植物をモチーフにした記念バッジを販売し、「礼文島リボンプロジェクト」として、その益金を礼文島の自然のために有効に活用しています。

■レブンアツモリソウ



■レブンウスユキソウ



■レブンコザクラ



2 宗谷クリーンアップ運動

北海道洞爺湖サミット開催（平成20年7月）を通じて高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、宗谷総合振興局では、平成21年度から「宗谷クリーンアップ運動」を

■豊富町における清掃活動の様子

展開しています。

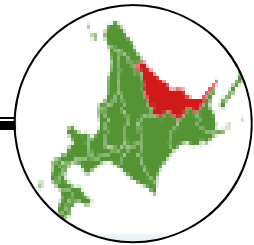
取組としては管内各地の清掃活動への参加、6月の環境月間におけるパネル展の実施、また「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体を募っています。

清掃活動については、平成29年度は8箇所に参加しました。

また、サポーター団体数は平成30年5月現在で59団体となっています。



一 【オホーツク】



1 クールオホーツク

オホーツク地域では、エリアカラーの「オホーツクブルー」（近い色を含む）を家庭や職場に取り入れた涼感の演出や、省エネ活動によるエコライフへの転換など、地球温暖化防止活動を地域活性化につなげる「クールオホーツク」の取組を展開しています。

■オホ・シャツを着用したクールオホーツクの啓発

平成29年度は、7月1日から8月31日までの2ヶ月間を実施期間とし、期間中の毎週水曜日を「クールオホーツクの日」としてオホーツクブルーを地域のブランド色として確立させ、エコでクールなライフスタイルへの転換を推進しました。

また、クールオホーツクの趣旨に賛同する企業・団体にポスターやのぼり旗を掲示していただくなどクールオホーツクの取組に積極的に参加いただきました。



オホーツク総合振興局では、実施期間に先立って、この取組を幅広くPRするため、クールオホーツク・キックオフイベントを開催し、環境工作の体験などを行い、約80名の方々にご参加いただきました。

実施期間中は、職員有志によりクールオホーツク啓発用ポロシャツ（通称：オホ・シャツ）を作成し、北見市、紋別市、（社）網走市観光協会の協力も得て積極的に着用したほか、振興局内にクールオホーツクコーナーを設置、地域の名産であるハッカ油を用いたアロマディフューザーによる清涼感の演出を行いました。

2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間行事の一環として、獣医師会、動物愛護推進員、ボランティアとともに動物愛護週間イベントを開催しました。

前年の「猫といっしょにハッピーライフ」の第2弾としたイベントでは、動物病院の先生方による猫に関する講演会のほか、動物愛護についてのポスター展示や犬猫の写真展などにより、ペットの愛護、適正飼育やマナーについてPRを行いました。

講演会には180名もの方々にご来場いただき、獣医師の先生方や動物愛護推進員が会場からの質問にお答えするコーナーでは、飼い主さんが不思議に思っている猫の行動や、野良猫への接し方などについて質問があり、動物愛護や適正飼育に対する理解を深めるイベントになりました。

■講演会の様子



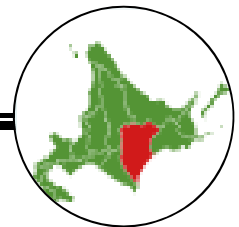
■動物愛護ポスター展



■質問コーナーの様子



＝【十 勝】＝



1 「もっとエコなとかちづくり」～とかち地域資源活用・価値創造事業～

十勝総合振興局では、平成20年度から「もっとエコなとかちづくり」を合言葉に低炭素型ライフスタイルの定着・促進を目指した取組を行っています。

(1) 普及啓発活動推進

帯広市等主催の「とかち・市民『環境交流会』2017」では、地域で社会貢献活動を実施している環境コンサルタント会社の方を講師に、子ども向け環境体験教室「光で動くペンギンを作ろう」を実施したほか、「エコドライブ宣言」の呼びかけや「不法投棄やめさせ隊」の募集など、地域で取り組む環境保全行動について啓発活動を行いました。

また、十勝総合振興局及び北海道建築士会十勝支部主催の「きた住まいるフェア」において、環境体験教室「ソーラーカーを作ろう」を実施したほか、「芽室町リサイクルまつり」では、参加者が様々なゲームを通

■光で動くペンギンを作ろう



■ソーラーカーを作ろう



じて環境にやさしい生活行動を考えました。

■施設見学



(2) 再生可能エネルギー施設見学

近い将来社会へ巣立つ高校生を対象に再生可能エネルギー等利活用の取組への理解を深めてもらうため、道内でも先進的な取組を行っている鹿追町環境保全センターや神田かんしょ研究所圃場の施設見学を行いました。

高校生たちは、畜産糞尿を原料としたバイオガスから自動車の燃料等となる水素の製造課程や、バイオガスプラントの余剰熱を利用した薩摩芋の育苗の取組など、地域の特色を活かした地球温暖化防止の取組について学びました。

2 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

「北海道クールアース・デイ」の取組の一環として、地域の商店街及び帯広市の協力のもと「おびひろ広小路ビアガーデン」において「ガイアナイトinおびひろ2017」を開催しました。

普段は賑やかなビアガーデンの照明を消灯し、来場者は幻想的なロウソクの灯りの下で、マンドリンの生演奏に耳を傾けながら、地球環境についてそれぞれ想いをめぐらせました。

■ガイアナイト



3 環境保全意識を持つ人づくり（地域環境学習普及事業）

国立環境研究所及び（公団）北海道環境財団との共催で、国立環境研究所出前教室「地球温暖化とわたしたちの将来」を開催しました。

国立環境研究所の4人の研究者の講話と実験体験、参加者との対話を行い、私たちができるこれからの温暖化対策について地域の皆さんと考えました。

■国立環境研究所出前教室



4 動物愛護週間行事のイベント

帯広市の総合施設のイベントである「プラザまつり」との合同開催で、動物愛護フェスティバルを行いました。十勝獣医師会による獣医師体験、動物愛護団体によるディスクドックデモンストレーションやチャリティグッズ販売、北海道盲導犬協会による盲導犬ふれあい教室、帯広市と十勝総合振興局によるペット同行避難デモンストレーションなど多彩な催しを行い、2日間で約400人の来場者がありました。

■獣医師体験



■ペット災害対策



■ディスクドックデモンストレーション



5 ペットの災害対策に係る連絡会議の開催

十勝管内では台風被害が相次いだこともあり、災害時におけるペットと飼い主の避難について関心が高まってきています。

十勝総合振興局では、道内では初めてとなるペットの防災対策会議を開催し、市町村防災対策担当課および畜犬登録担当課、十勝獣医師会、保健所が相互に情報共有を図れる体制を構築することとしました。

また、ペットを連れて避難するためには日常のしつけが重要であるため、関係機関が自主的に適正飼育についての普及啓発を進めていくことを確認しました。

■会議資料



6 エゾシカ有効活用PRイベント

(1)「TREE FESTIVAL」

「TREE FESTIVAL」は、十勝の木に触れて遊んで学べるイベントです。

近年、エゾシカが増加しており、餌の確保ができなくなったエゾシカが、森林に生息している草木を食べつくすことで食性が悪化してしまうことが問題となっています。

十勝総合振興局では、「TREE FESTIVAL」において、地域住民にエゾシカについて知ってもらうためにエゾシカ問題を紹介するパネル展示、シカの角を使った輪投げコーナー、シカの皮とかぶり物を使っての「エゾシカなりきりコーナー」を出展し、皆様に理解を深めていただきました。

■会場の様子



(2)「食べる・たいせつフェスティバル」

コープさっぽろ主催の「食べる・たいせつフェスティバル」(帯広会場)に参加し、エゾシカ肉の栄養成分をPRしました。また、“食べる=命の大切さ”を子供達にも理解してもらうため「ハンターなりきり」や「シカ角輪投げ」など分かりやすく楽しめるコーナーを設け、啓発を行いました。

■会場の様子



(3) エゾシカ肉販売拡大キャンペーン

エゾシカ肉の普及のため、コープさっぽろベルデ店（帯広市）の協力で、環境生活課職員による店内でのエゾシカ肉の試食販売を行いました。

同時に、前年度に十勝の高校で実施したエゾシカ出前講座において生徒が取り組んだ成果を、作品展として展示し、地域の方々にエゾシカ問題についての理解を深めてもらうことができました。



(4) エゾシカ肉の販売に係る意見交換会

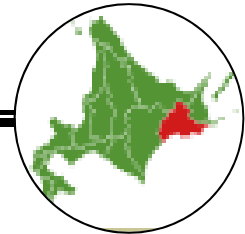
上記(3)において一般消費者から得られた意見を踏まえ、エゾシカ肉のより効果的な販売方法を検討する意見交換会を行いました。

意見交換会には、エゾシカ肉処理施設関係者、販売店の精肉担当者、飲食店関係者など計8名が参加し、生産者→販売者→調理者（消費者）の各立場から、現在の課題とその改善方法について活発な意見交換がなされ、一般消費者への消費拡大を図る足がかりとすることができました。

■意見交換会の様子



＝【釧路】＝



1 ウチダザリガニ防除の取組み

特定外来生物ウチダザリガニの防除は、今では道内各地で盛んに行われていますが、釧路市春採湖では平成20年度から続いており、釧路市は防除のパイオニア的存在です。平成29年度は3,113個体ものウチダザリガニを捕獲しています。例年、普及啓発を目的に専門家による解説や捕獲を体験する自然観察会も開催しており、この日は大勢の親子連れで賑わいました。

また、浜中町の霧多布高校では「地域と自然」の授業として、ウチダザリガニの生息状況調査を行いました。調査河川では幸いなことにウチダザリガニは確認されず、カワシンジュガイやヤマメ、水生昆虫などが生息していることが分かりました。生徒たちには、故郷のきれいな自然を大切にしたい気持ちがうまれたようでした。

2 2017 動物愛護フェスティバル in くしろ

動物愛護週間にちなみ、9月30日に釧路市内で開催したイベントのテーマは「ペットも守ろう！防災対策」でした。動物愛護団体による譲渡予約会では人だかりができるほどでした。そのほ

か、パネルの展示や、迷子札を無料で製作するコーナー、ペットの無料相談などを実施し、延べ 300 人の方々に関心を寄せていただきました。

今回のフェスティバルではテーマにちなみ、ペットの防災に関するスライドショーを作成し、テレビモニターで上映しました。災害発生に備えた対策や、災害発生時の同行避難における注意点などを解説し、自分のペットをどのように守るのかを訴えることもできました。

3 タンチョウ越冬分布調査

環境省の委託を受け北海道が実施しているタンチョウ越冬分布調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータになるだけでなく、子供たちの環境教育にも役立っています。

平成 29 年 12 月の調査では、地元の小中学生 66 名(8 校)中学生 102 名(5 校)合わせて 168 名の参加を得て、釧路管内で 538 羽のタンチョウの生息を確認しました。

■春採湖自然観察会



■霧多布高校生息状況調査



■動物愛護フェスティバル



■給餌場集まるタンチョウ



4 くしろエコ・フェアにおける環境啓発の実施

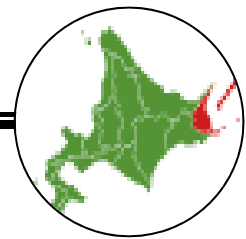
「くしろエコ・フェア」は、環境に関心のある団体・個人が「くらしと環境」について考える場を共有したいとの思いから、平成 19 年の発足以来、環境月間である 6 月に、環境に関する様々な取組を行うイベントです。

平成 29 年度は 6 月 24 日に釧路市生涯学習センター(まなぼと)で開催されました。釧路総合振興局も地球温暖化防止を周知するため「エコ&セーフティドライブ」のパネル展の実施や、廃棄物の減量化促進のため「小型家電リサイクル法」の周知パンフレット、「リサイクル製品」紹介の冊子等の配付を行いました。

■くしろエコ・フェア会場の様子



＝【根 室】



1 世界自然遺産・知床の日

知床がユネスコの世界自然遺産に登録されたのは、平成 17（2005）年 7 月 17 日。それから 10 年、改めて知床の価値を見つめ直し、私たち北海道の大切な財産を、未来の世代へしっかりとつなげるようにという目的で、平成 28（2016）年 3 月に、知床の保全や適正な利用を推進するための北海道知床世界自然遺産条例が可決されました。

この条例においては、知床世界自然遺産の保全等を推進するに当たり、「関係行政機関・団体と道民や来訪者、事業者との協働」や「世界自然遺産としての顕著な普遍的価値に対する道民等の理解の増進」が必要であると謳われ、また、「道は、そのために必要な措置を講ずるもの」と規定されています。

知床が世界遺産だと言うことはよく知られるようになりましたが、知床の何がすごいのかということあまり知られていません。そのため、知床について考えてもらうために「知床の日」をつくりました。

なぜ、1 月 30 日を「知床の日」にしたのかというと、知床は北半球において流氷が接岸する南限であり、また、流氷は多くの生態系に恵みをもたらします。知床が世界自然遺産になった平成 17（2005）年に、知床で流氷が接岸した最初の日が 1 月 30 日でした。知床のすばらしい自然には流氷がとても大きな役割を果たしています。道では、知床の豊かな生態系を支える出発点として重要な意味を持つ「流氷」にちなみ、知床における流氷接岸初日を「知床の日」としました。

「世界自然遺産・知床の日」に協賛するイベントが地元の町や道庁赤レンガで開催されています。当振興局では、1 月 30 日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させることを目的として、平成 30 年 1 月 26 日から平成 30 年 2 月 2 日までの間、根室振興局の道民ホールにおいて、パネル展を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の啓発活動を行いました。

2 ねむろバイオマスセミナーの開催

根室地域に豊富に存在するバイオマス資源の利活用の促進を目的として、平成30年2月13日に、中標津町総合文化会館にて「ねむろバイオマスセミナー」を開催しました。

セミナーは2つの講演から成り立っており、最初の講演では、平成29年に国に認定された「中標津町バイオマス産業都市構想」についての説明がありました。臭気対策、河川流出対策、有効活用対策などの家畜糞尿対策が行政課題としてあったこと、家畜糞尿の管理状況の変化による家畜糞尿の増量、市街地の拡大による市街地住民と酪農エリアの接近化、観光振興・空港対策上の課題などの構想策定に至った経緯、家畜排泄物のエネルギー化、肥料化を中心とした循環型「農」のまちづくりを目指す構想の概要などについての説明がありました。

続いて、北海道におけるバイオガスプラントの現状についての講演がありました。北海道内には稼働中・建設中のバイオガスプラントが83基あり、個別型・集中型バイオガスプラントについては事例を踏まえての紹介がありました。さらに、肥効の向上、悪臭の減少、雑草種子の死滅、有害細菌の死滅、病害抑制効果、土壌の団粒化などの消化液の効用について説明がありました。

今後もバイオマスの有効活用に向けた取組を積極的に進めていきたいと考えています。

■会場の様子

